# SAGA no RINGYOU.

VOL. 660

Issue 2022.03.01

佐賀の林業

SAGA 伐木チャンピオンシップ 2021

# Introduction

## 表紙の紹介

SAGA伐木チャンピオンシップ2021（令和3年12月5日）

佐賀県及びふる郷の木づかいプロジェクト会議流域森林・林業活性化部会の共催で、県内では初となる日本伐木チャンピオンシップ（JLC）公認の競技会が開催されました。県内の事業体の選手と県外招待選手を含めて総勢30名の林業従事者が競技に参加し、安全作業を意識した4種目の林業技術を競いました。

今回の大会では、平成30年まで行われていた「佐賀県きこり選手権」から大きく姿を変え、一般の方も来場しやすい嘉瀬川河川敷で開催したこともあり、約1，300名の来場者がありました。また、JLC公式ルールを用いることで、県外の選手を招き、全国レベルの競技を見ることで新たな刺激を得るとともに、林業に対する思いを共有し、関係者が一体となって林業の魅力を発信しました。

# 目次


### 林業ひろば

03~04 SAGA 伐木チャンピオンシップ 2021 を開催

05~06 目指す林業の形

### 普及だより

07 地域住民による協同活動等をサポート

08 新たな山菜ギョウジャニンニクの普及

09 高校生への林業就業支援講習の実施

10 高校生向け林業教室の開催

### 林試だより

11 小さな森の探検隊を開催しました

12 原木しいたけ栽培の省力化を目指して！

# SAGA 伐木チャンピオンシップ 2021 を開催

## 新たな競技会

令和 3 年 12 月 5 日（日）、佐賀市の嘉瀬川河川敷において「SAGA 伐木チャンピオンシップ 2021」を開催しました。

この大会は、林業従事者の林業技術の向上及び林業の魅力の発信を目的とし、日本伐木チャンピオンシップ（JLC）公式ルールに準じて競技会を行いました。

当日は好天に恵まれ、家族連れなど約 1,300 名の来場者がありました。

## 林業技術の向上と魅力の発信

平成30年まで行われた「佐賀県きこり選手権」から大きく競技ルールを変え、４種目で速さや正確性、安全性を競いました。実際の現場作業とは異なりますが、必要となる技術や安全意識は現場でも活かせる部分があるため、参加された選手からは「いい経験・勉強になった」、「普段の作業でも安全を意識するようになった」、「県外や他の事業体の選手とも交流し、いい刺激になった」との声もいただきました。

（伐倒競技）

（接地丸太輪切り競技）

（丸太合わせ輪切り競技）

（枝払い競技）

今大会では林業従事者の技術の向上に加えて、林業の魅力の発信を大きな目的としていました。多くの方に林業という仕事を知ってもらう、林業で働いている方々の姿を直に見てもらう、丸太や林業機械に触れてもらうことにより PR の場となるよう意識しました。

競技の観戦については、司会者と解説者により競技のポイントや実際の現場の話などを交えて解説していただき、林業従事者の技術の高さを分かりやすく伝えてもらいました。

競技の最後には選手のインタビューを行い、林業従事者自らの声を観客に届けることで親近感が湧き、林業への理解に繋がったと思います。

また、選手のご家族やご友人なども応援に駆け付けられ、普段は見ることのない仕事の姿を見ていただける貴重な機会になったと思います。

（選手インタビューも観客から好評でした）

（イベントを楽しむ子供たち）

イベントエリアでは木工体験や丸太運動会、林業機械の展示、アウトドア関連のブースを用意し、来場者は観戦だけではなく丸太や林業機械に触れるなどの体験を通じて、より林業に対して興味や関心が生まれたと思います。

会場も市街地から近い場所だったため、これまで林業に関わりの無かった層にアプローチできました。

## YouTube で競技会の様子を発信

競技やイベントエリアの様子をダイジェスト動画にし、YouTube の県公式チャンネルに掲載しました。動画にすることでイベントに来場できなかった方にも魅力を発信することができ、継続的なＰＲ効果が期待できます。動画は「SAGA 伐木」で検索いただくか、QR コードを読み取っていただくことでご覧になれます。

（動画イメージ）　　（QR コード）

## 競技の結果

競技の結果、以下のとおり受賞が決定しました。

総合優勝　太良町森林組合Ａチーム
総合２位　太良町森林組合Ｂチーム
総合３位　（協）唐津木材市場チーム

[競技別]
伐倒競技１位　吉岡和起（（協）唐津木材市場）
接地丸太輪切り競技１位　奥山弘一郎（㈱西部林業）
丸太合せ輪切り競技 １ 位　本田圭汰（太良町森林組合）
枝払い競技１位　平古場竜太（太良町森林組合）

## 競技会を終えて

最後になりましたが、業務でお忙しい中にもかかわらず参加いただいた選手をはじめ、ご協力いただいた関係者やスタッフの皆さまに感謝を申し上げます。

次回は 2023 年の開催予定ですが、回を重ねるごとにより良い競技会になり、林業従事者が楽しみながら技術を研鑽されるとともに、県民の皆さまに林業の魅力をさらに発信できる場になることを期待しています。

（林業課　林産担当　池田　浩章）

# 目指す林業の形

## 佐賀にUターンして2年

佐賀市地域おこし協力隊の信本（しのもと）です。東京から佐賀へUターンして2年が経ち、全くの素人でしたが、師匠から林業を教わってきました。2年間、林業という仕事に携わり、まず感じたことは、「おもしろい！」という事です。チェンソーを巧みに使いこなし、あらゆる木を伐倒する技術や、素材搬出のためにバックホウを乗りこなし、作業道を作っていく事はとても奥が深く、作業していて飽きません。林業に必要な資格取得や安全講習も受講し、操作できる機械も増えてきました。

楽しさを感じる一方で、はじめての夏場の仕事では暑さに苦しみ、少し痩せてしまいました。やはり体力仕事であることも感じ、昼の弁当の量を増やし、早寝早起きをするようになりました。結果として体力、筋力がつき、健康的になった事は良かった点です。技術や知識はまだまだ不足しているため、師匠に教わるだけでなく、研修などに積極的に参加することで、さまざまな方から、たくさんの事を学んでいきたいと思っています。

## 目指す林業の形

当初より、自伐型林業のスタイルを目指していましたが、やはり、考え方は変わらず、比較的小規模で、兼業・副業型の林業の形を目指しています。雨や雪の日は作業中の事故の危険性が上がるため、極力作業をしていませんが、雨の日のための別の仕事を作っておくことで、安全性と、収入の安定性の両面でプラスになると考えています。今は、薪の生産や林産物の販売、木工品の製作などを考えています。比較的小規模な山林の搬出間伐を行いながら、兼業での収入を確保する、そんなビジネスモデルを実現できればいいなと考えています。

## 新しい動き　ふじ山守塾（やまもりじゅく）

林業に興味のある若い方や林業に従事しているベテランの方々を会員とした任意団体「ふじ山守塾」を設立しました。コンセプトは、「副業・兼業型」、「自伐型林業」、「次世代への技術・知識の継承」などで、佐賀市の森林整備を行っていきます。初年度は下草刈りや切捨て間伐、枝打ちなどの作業を行い、補助金に関する勉強会なども開催しました。会員はそれぞれ、主となる仕事を持ちながら、休みの日に作業するという形で行いましたが、林業の基本を知ることができ、皆、躊躇することなく山の中に入っていけるようになった事が良かった点です。

将来的には兼業・副業型の林業で収入を得る流れを作り、技術・知識を継承しながら、地元に留まる若者や移住者の受け皿になるなど、地域振興に繋がればいいなと思っています。

## 課題と挑戦

12月に富士町古湯でファミリー向けのイベントを開催するとのことで、地域おこし協力隊として参加することになりました。間伐等で出た林地残材を使って何かできないかとちょうど考えていたため、ふじ山守塾のメンバーに声をかけ、富士町産のヒノキの薪やスウェーデントーチを制作・販売しました。無料の火おこし体験も行い、当日は家族連れが多く訪れ、大盛況でした。山の恵みを少しでもお金に換える取り組みができ、子供も大人も山に興味を持ってもらういい機会になりました。このように、山の恵みを最大限利用し、イベントなどに出店することも、私自身の仕事の核にしていきたいと思っています。

地域おこし協力隊の任期は残り1年となり、独立に向けていろいろと準備することが増え、山林の購入や自伐型林業に必要な重機の購入も検討中です。山間部に暮らし、山の恵みに感謝しながら活動していく今後の自分の人生が楽しみです。

（信本　力哉）

### １２月に開催された　ふるくまウィンターフェスティバルの様子

火おこし体験

林地残材を薪やスウェーデントーチにして販売

普及だより

# 地域住民による協同活動等をサポート

佐賀県東部に位置する当管内は、福岡県に隣接し、福岡の中心都市へのアクセスも良いことから、林業が盛んではありませんが、地域住民による協同活動等を通したコミュニティ活動が活発な地域です。

このような協同活動が形成されたのは、地域の活性化を目指すリーダーの熱い思いと、その思いを活動へ導いた前任の林業普及指導員の貢献によるものであり、その活動は現在も受け継がれ、林業試験場の応援を受けながら農林事務所の普及指導員も講師として参加し、その活動をサポートしていますので紹介します。

鳥栖市で活躍されている「九千部クラブ」は、平成 20 年に設立され、荒廃竹林の整備や伐採した竹を活用して環境教育などの活動を継続されています。　今年度は、8 月 21 日、9 月 18 日、10 月 16 日、11 月 20 日のいずれも土曜日に、メンバー以外の参加者を募ってチェンソー取扱等の安全教育、立木調査と伐採木の選定、伐倒、玉切り、林内整理及び土佐の森方式軽架線による搬出作業等の研修会を開催されました。

基山町で活躍されている「基山町林業研究会」は、平成２１年に設立され、地域の文化遺産や景観維持、里山の整備などを目的として、林業技術研修等の活動を継続されています。　今年度は、１１月２１日、１月１６日、２月６日のいずれも日曜日に、メンバー以外の参加者を募って、山の手入れやチェンソーの目立や整備の講義、及び間伐、造材、搬出作業の研修を開催されました。

なお、今回詳しくは紹介できませんが、上記団体のほか「河内ダム周辺環境林サポーター連絡協議会」（鳥栖市）、「THE WOODYS KIYAMA」（基山町）、「脊振倶楽部」（神埼市）、「中原の豊かな自然を守る会」（みやき町）等が各地域で活躍されています。

また、12 月８日、学校の課題研究授業でＳＤＧｓ目標 15 に取り組む中で「森林・林業」に関心を持たれた佐賀県立鳥栖工業高等学校の生徒のみなさんと、当事務所で意見交換をしました。　高校生のみなさんと森林・林業のことで直接会い、向かい合って話せる機会はめったにないことであり、地域住民による協同活動や林業の担い手の確保につながることを期待しています。

（東部農林事務所　林務課　松永　卓也）

普及だより

# 新たな山菜ギョウジャニンニクの普及

こちらは梅の木の下に作った圃場で、今年から栽培されます

佐賀中部農林事務所林務課普及担当では、ギョウジャニンニク栽培の普及を行っています。ギョウジャニンニクは近畿以北に分布する山菜です。林業試験場が研究した結果、佐賀県でも栽培出来ることが分かりました。北海道や東北では人気の山菜ですので、高い商品価値が見込めます。この新たな山菜が佐賀の山村地域の活性化や所得向上を促すことを期待しています。

ギョウジャニンニクの普及にあたり、まずはモニター栽培者の掘り起こしを行いました。この結果、管内で今年新たに3 名の方を加え、計６名の方にモニター栽培をお願いしています。モニターの方からは「大変美味しいので、販売分まで家族で食べてしまいそう」「集落で味噌や麹といった加工品にしてみたい」といった好意的な感想を頂きました。野菜とは異なり、栽培に長い期間を要すること、日陰や酸性土壌を好む点に戸惑われることもありますが、林業試験場と協力して栽培方法の指導や生産状況の確認をしています。

生産量の増産や販路の確保など、まだまだ課題もありますが、引き続き普及活動を行っていきます。

（佐賀中部農林事務所　林務課　普及担当　多良　勇太）

新たなモニター栽培者へ栽培方法の説明をしています

こちらはモニター栽培３年目の圃場です
苗も大きくなってきました

普及だより

# 高校生への林業就業支援講習の実施

伊万里農林事務所では、伊万里有田地区森林・林業協議会の活動として、高校生への林業就業支援講習を実施しています。伊万里有田地区では、県内唯一の林業専門コースを有する伊万里実業高校がありますが、卒業生の進路では、森林・林業関連の企業や事業体への就職が全体の５分の１程度であるのが現状です。

**令和2年度の伊万里実業高校（林業コース）進路先**　（人）

| 進学 | | | | 就職 | | | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学 | 短大 | 各種・専修学校 | 計 | 林業関係 | その他企業 | 自営者 | 自衛隊等 | 計 | |
| - | - | 2 | 2 | 3 | 9 | - | 2 | 14 | 16 |

また、管内の林業事業体においては、間伐等の森林整備や木材生産の増大に伴い、現場における人材の確保が喫緊の課題となっており、管内高校からの新卒採用に積極的に取り組んでいますが、思うように採用まで結びついていません。こうした行き詰った林業担い手の状況を打開するため、当協議会では、伊万里市と有田町の協力を得て、令和３年度から森林環境譲与税を活用した林業担い手対策として「林業就業促進対策事業」を創設し、高校生に対して林業事業体への就業促進を図るための支援講習を始めることとなりました。

林業就業支援講習は、通常の授業では実施できない校外学習をカリキュラムに組み込んで、実際の林業事業体で行われている作業現場を体験してもらうことを目的に実施しています。今年度は、１２月までに高性能林業機械操作体験研修を３回、３月に林業事業体職場体験研修を１回実施する計画です。

１２月末時点で高性能林業機械操作体験研修を３回実施しましたが、体験した生徒たちからの反応は概ね好評で、中でも学校の授業では体験できない機械操作に高い関心を示していました。また、実業高校 OB の技術オペレーターから熱心な指導の甲斐もあって、短い研修時間でしたが、ハーベスタやフォワーダ、ザウルスロボの高性能林業機械の操作にも慣れてきたようでした。

来年度から、林業就業支援講習では、チェンソー講習も新たに追加して内容を更に充実させていく計画です。高校生がこの講習を通して林業事業体の仕事に関心を持ち、就業活動に結びつくよう期待するとともに、就業後のフォローアップにも努めていきたいと思います。

（伊万里農林事務所　林務課　普及・森林管理担当　淵上　武俊）

普及だより

# 高校生向け林業教室の開催

令和３年 11 月 15 日（月）～16 日（火）に佐賀南部林政協議会主催で高校生向けの林業教室を佐賀農業高校で開催しました。この取組は卒業後の進路を考えている高校生に対して、「森林」「林業」の世界について知ってもらい、就職先として「林業」を選択肢に加えてもらうことを目的としています。参加者は２年生８名と３年生１名で、「室内学習」と「現場見学」を２日間に分けて開催しました。

１日目の「室内学習」は、佐賀農業高校で実施し、電子黒板でパワーポイントと YouTube を活用しながら、森林の働き、林業の仕事、林業の魅力について説明しました。また、林業教室の開催日が SAGA 伐木チャンピオンシップの開催時期と近かったこともあり、宣伝も兼ねて YouTube で「日本伐木チャンピオンシップ」の動画を流したところ、この大会について知っている生徒はいませんでしたが、興味を持った様子でした。

２日目の「現場見学」は、鹿島嬉野森林組合の協力で、嬉野市有林の搬出間伐現場で実施しました。現場ではチェンソー伐倒とハーベスタによる造材作業のデモを見学した後、「ハーベスタ操作」「ドローン操作」「GPS 測量」について、森林組合作業班と農林事務所職員の指導で体験してもらいました。実際に体験した生徒たちは、これらの機械に強い興味を示され、林業に対するイメージが良くなってきたと感じました。

その後、鹿島嬉野森林組合の作業班にインタビュー形式で「勤務歴」「林業の仕事を選んだ理由」「林業のいいところ」などを話してもらい、生徒たちからは「特にきつい仕事はなにか」「暑さ寒さ対策はどうしているか」など様々な質問がありました。

今回参加した高校生にアンケートを行ったところ、９名のうち３名が「林業に関係する仕事に就職したい」と回答しており、残りの生徒が「今後林業に興味関心をもっていきたい」と回答していました。

今回、林業教室開催にあたり、佐賀農業高校の校長先生をはじめ、進路指導担当及び環境工学科の先生方には大変お世話になり感謝申し上げます。現在、林業の担い手不足が進んでおり、森林を守り続けていくうえで大きな課題となっています。今後も、林業普及指導員として、地域の森林・林業を守り育てていく担い手の確保に向けて、この林業教室の取組を続けていきたいと思います。

（杵藤農林事務所　林務課　普及担当　内山　和彦）

# 小さな森の探検隊を開催しました

令和３年 11 月７日に、林業試験場で第 28 回「小さな森の探検隊」を開催しました。「小さな森の探検隊」は、林業試験場１日体験イベントとして、近年では年に１回開催しているものです。開催時期は前回実施時に参加者に対して行ったアンケート調査で、「秋に開催してほしい」との意見が多かったことを踏まえて11月となりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、午前の部と午後の部に分けたり、開会式のような一か所に大勢が集まるプログラムを避けるなど、三密になりにくいように配慮しました。

当日は天気にも恵まれ、子ども、大人合わせて 113 名の参加がありました。主なイベント内容は、「木の実の工作」と「森のビンゴゲーム」の二つです。「木の実の工作」では簡単な工作を行いました。県内産の杉の板に、「平成子ども記念の森」で採集した木の実等で飾りつけたオブジェを作りました。参加者の皆さんは、形や大きさの違うドングリや松ぼっくりなどを上手に使い分けて、アニメのキャラクターを作るなど思い思いのやり方で楽しんでいました。

木の実の工作

「森のビンゴゲーム」は、気持ちの良い秋晴れの中、「平成子ども記念の森」に設定された遊歩道を歩きながら行われました。大きなクスノキの根元では、子どもたちが手をつないで幹の周りを囲み、木の大きさに驚いていました。また、ドングリの森や松ぼっくりの森では大小さまざまなドングリや松ぼっくりが落ちていて、子供たちが夢中で拾い集めていました。最後に、今回の参加者には、万華鏡体験セットやシイタケの完熟ホダ木をお土産として配り、解散となりました。

これまで、「小さな森の探検隊」は５月に実施することが多かったのですが、秋に開催することで、紅葉や木の実拾いなど、秋ならではの「平成子ども記念の森」の魅力を楽しんでもらえたのではないかと思います。

森のビンゴゲーム　（大きな木の下で）

森のビンゴゲーム　（ドングリくらべ）

（林業試験場　普及指導課　宮崎　潤二）

# 原木しいたけ栽培の省力化を目指して！

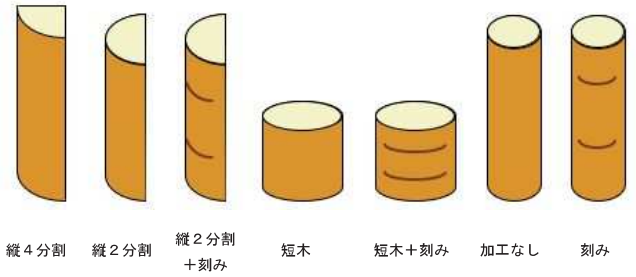
林業試験場では、県内の原木しいたけ生産者の高齢化が進んでいるため、令和２年度から原木しいたけ栽培の作業等の省力化を図るための研究に取り組んでいます。

現在、原木しいたけ栽培を行ううえで課題となっていることは、県内のクヌギ林の大径化が進み、大径木を原木として使わざるを得ない状況になっていること、しいたけの収穫作業や原木の伐採作業を行う時期と他の農作物等の収穫作業を行う時期が秋期に集中していること、古くなったほだ木は、しいたけの発生量が大幅に減少してしまうことなどが挙げられます。

これらの課題に対応するため、①大径原木の省力的な利用、②原木の春切り、③古ほだ木への発生操作という３つの観点から、試験研究を進めています。

大径原木の省力的な利用による試験では、大径原木を縦４分割、縦２分割、短木に加工するとともに、一部の原木に刻み加工を施して植菌を行い、しいたけの発生量を調査することにしました。

**大径原木のほだ木の形状**



**短木のほだ木に発生したしいたけ**

令和２年度の調査結果は、短木に加工したほだ木の材積当たりの発生量が最も多く、次いで、短木＋刻み、加工なし、刻み、縦２分割、縦２分割＋刻み、縦４分割の順でした。

原木の春切りによる試験では、クヌギを一般的な伐採方法（１１月に伐採し、２ヶ月ほど葉枯らし乾燥した後、玉切りにする）で伐採した原木と、春切り（２月、３月、４月に伐採し、すぐに玉切りにする）で伐採した原木に植菌を行い、しいたけの発生量を調査することにしました。

令和２年度の調査結果は、一般的な伐採方法のほだ木の材積当たりの発生量が最も多く、次いで、２月の春切り、３月の春切り、４月の春切りの順でした。

古ほだ木への発生操作による試験では、平成２７年度から平成２９年度に植菌した古ほだ木を、散水、散水＋くぎ目入れ、散水＋ヒモカッターの発生操作を行ったものに散水なしを含めた４区分でしいたけの発生量を調査することにしました。

**くぎ目入れ状況**

**ヒモカッター刺激状況**

令和２年度の調査結果は、散水＋くぎ目入れの材積当たりの発生量が最も多く、次いで、散水＋ヒモカッター、散水、散水なしの順でした。

令和２年度は、このような調査結果となりましたが、しいたけを安定的に出荷し、収益を確保していくためには、単年度の発生量も重要ですが、複数年での累積発生量も重要になってきますので、今後も引き続き試験を行い、どのような条件で栽培した方が作業の省力化につながり、より多くのしいたけを収穫することができるのか検証し、県内のしいたけ生産者の労働力の軽減と収益の確保につなげていきたいと考えています。

（林業試験場　研究開発担当　山浦 好孝）

「みんなで育てよう！さがの森林」
Facebook公式ページはこちら！
気になる方は「いいね！」しよう
Follow us!
http://www.facebook.com/saganomori

さがのよか木を応援する「よかウッド」
YOKA-WOOD.
http://www.yoka-wood.jp

編集・発行
令和４年３月１日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL：0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」を使用しています。
VEGETABLE OIL INK